

イミノクタジンアルベシル酸塩・キャプタン水和剤 ダイパワー水和剤	取扱メーカー： 日農、日本曹達 原体メーカー： 日本曹達、アリスタ LS
成分： イミノクタジンアルベシル酸塩〔PRTR・1種〕…20.0% キャプタン〔有機塩素系〕……………45.0% その他 PRTR 該当成分： ドデシル硫酸ナトリウム〔PRTR・1種〕……………2.0%	性状： 類白色水和性粉末45μm以下 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- りんごの生育期後半の総合防除剤である。
- 果樹、野菜の主要病害に幅広い抗菌スペクトルを有し、特に斑点落葉病に高い効果を示す成分と炭疽病、すす点病、すす斑病に高い効果を示す成分とを組み合わせた複合製剤である。
- 発病前の散布で優れた予防効果を示す。
- 作用性の異なる成分を配剤しているので薬剤耐性菌に対しても優れた効果を示す。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- イミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤及びマシン油剤との混用はさける。
- 適用作物（りんご、西洋なし品種ル・レクチュエ、かきの品種西村早生）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 適用外作物（ばら）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

- ぶどうに使用する場合、幼果期～袋掛けまでの散布は、果粉の溶脱や果実の汚染を生じるおそれがあるので注意する。
- ももでは、発芽後の若葉には薬害を生じるおそれがあるので必ず発芽前に散布する。
- ももの縮葉病に使用する場合は、発芽直前の使用が効果的である。
- おうとうに使用する場合、着色期以降の散布では薬害（着色障害）が生じるおそれがあるので使用しない。

【安全対策上の注意】……………

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 夏期高温時の使用をさける。
- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



カブレ

【適用と使用法】

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	イミノクタジンを含 む農薬の総使用回数	キャプタンを含む 農薬の総使用回数
りんご	黒星病	1000 倍	200～ 700 ℓ	前日まで	6 回以内 (但し、開花 期以降散布 は 3 回以内)	散布	8 回以内 (液剤及び水和 剤は合計 6 回 以内 (開花期 以降は 3 回以 内)、塗布剤は 2 回以内)	6 回以内
	すす点病 すす斑病 斑点落葉病 炭疽病 褐斑病 黒点病 輪紋病	800～ 1000 倍						
おうとう	灰星病 幼果菌核病			3 回以内	3 回以内		5 回以内	
なし	輪紋病 黒星病 うどんこ病 黒斑病 炭疽病			14 日 前 まで	4 回以内		5 回以内 (塗布剤は 2 回 以内、液剤は 1 回以内)	9 回以内
				3 回以内	3 回以内		5 回以内	
かき	うどんこ病			休眠期	1 回		3 回以内 (休眠期は 1 回以内)	4 回以内
ぶどう	べと病 黒とう病 晩腐病	1000 倍	60 日 前 まで	2 回以内	3 回以内 (休眠期は 1 回以内、生 育期は 2 回 以内)	3 回以内		
きゅうり	褐斑病 炭疽病 うどんこ病 べと病		100～ 300 ℓ	前日まで	5 回以内	7 回以内	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)	
たまねぎ	灰色かび病					5 回以内	6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 5 回以内)	